

文部科学大臣賞に続く特別賞を受賞



NPO 法人仕事への架け橋第 9 回全国高校生・高等専修学校生
「私のしごと」作文コンクール

おめでとう!!

テーマ

●仕事で、被災地とつながろう!

「私は人生を農業に捧げる」

宮城県農業高等学校3年
相澤和久



ふと空を見上げると、そこには青く澄んだ一点の曇りなき空。収穫の時を迎え、どこまでも限りなく続く、黄金の田園風景。「俺は農業に生きる! 農業は俺にとっての全てなんだ。」2年ぶり、水田に実った黄金の稲穂を前に、私の思いが揺らぐことはありませんでした。それは、夢が決意に変わった瞬間でした。私は将来、「顔の見える農業」を行い、地域の皆さんに無農薬で安心・安全な作物を提供すること、そして、8年後は私がリーダーとなった組合で、集団営農を行い、「美味しい」や「ありがとう」の笑顔が生まれるような農業経営を行いたいと考えています。私の家は名取市で稲作約4ha、野菜7a、ハウス4棟にわたり、約30種類の野菜や果樹を栽培している兼業農家です。物心ついた時から田畑に入り、祖父の背中を追いかけて、農業一筋で育ってきました。今では、自らの畑を持ち、産直所へ出荷できるまでになりました。「いつか俺もじいちゃんみたいな立派な農家になるんだ!」—しかし、祖父との思い出の場所、やっとの思いで育てた農作物を、東日本大震災が一瞬にして奪い去ったのです。田畑に向かえば沢山のヘドロと瓦礫。被災の年、我が家では当たり前のように行っていた作付けが、全くできなくなってしまいました。しかし、「自分で育てた農作物を地域の方々に食べてもらいたい。」その思いが変わることはありませんでした。幸い畑は無事だったため、試行錯誤を重ね、収穫物を地域の方々に食べてもらうことができました。「見事な野菜だなあ。」「ありがとう。また美味しい野菜を作ってな。」地域の方々からかけて頂くこの言葉から自信をもらいました。夢実現計画1年目。昨年の夏に私はソフトバンクリーダーシッププログラムに参加し、アメリカで3週間の農業研修を体験してきました。そこでは農業の在り方、栽培方法について学ぶだけでなく、ネットワークを利用した海外との農業経営への可能性にも大きな期待が持てました。夢実現計画2年目。テレビ局から名取市の名産であるクールボジャメロンについて取材を受けました。砂地を好むクールボジャメロンは、長年名取・岩沼海岸沿いで生産され、その味は地域の方々から愛されていました。しかし、震災の影響により壊滅的な被害を受け、生産量が激減しました。私はこのメロンの味を復活させ多くの方々に食べてもらいたいと考え、露地野菜部門を専攻し、海岸沿いの砂を校舎の畑に運び、クールボジャメロンの栽培を行っています。今年は高校3年になり、自分の進路実現に向けて一歩を踏み出す年です。私はこれからの時代で一番大切なのは、時代感覚だと思っています。今後社会が、どのように発展するのか、幅広く時代の流れをつかみながら、新しい時代に対応した我が家の経営と、地域農業の発展を求めたいのです。理想の農業経営をするためには、まだまだ勉強が必要です。高校卒業後は大学に進学し、農業についてさらに深く学習したいと考えています。そして、震災により離農を考えている地域の農家と提携し、組合として集団営農を大規模に展開していきたいです。私が目指す「顔の見える農業」が、「美味しい」や「ありがとう」の笑顔を生み、農業の輪、地域の輪をさらに広げることができるきっかけになれば、これほど嬉しいことはありません。これからも農業を通した繋がりを大切に、これまで支援していただいた方々へ恩返しをすることで、共に農業を盛り上げていきたいと考えています。それこそが、私の考える復興への道だからです。そして夢実現計画8年目には、必ず、同じ復興を志した農家と組合を作り、四季折々に収穫される野菜や果物を栽培し、各四季の年4回で収穫を行い、出荷することで、安定した農業経営を行っていきます。今日も空を見上げるとそこには大きな青空。そして、私は今日もまた一歩を踏み出します。

平成 24 年版農水省白書に掲載

NPO 法人仕事への架け橋第 8 回全国高校生・高等専修学校生
「私のしごと」作文コンクール <優秀賞受賞>

宮城県農業高等学校3年 佐藤禎俊



名取市関上は3.11当時、死者911人・行方不明41人、半壊以上の建物5,000棟以上。おりしも、この日は市内の中学校の卒業式当日であった。ゆりあげでは、海から1Km以内の木造住宅は、ほぼ全て流失した。更に火災も発生するなど津波によってゆりあげの沿岸部は、壊滅的な被害を受けた。



カナダからの寄付とゆりあげ港朝市共同組合員の協力によりやっとのことでメイプル館が完成。



[国際交流協会ともだち in 名取 (http://blog.canpan.info/tomo_in_natori/) 事務局 若山陽子さんは facebook をしています。]



産官学十海外日系人団体
連携プロジェクト in 名取市の胎動



2013.12.1
グランドオープン



「奇跡の牛」全国大会へ 宮城農高のサニー

東日本大震災で被災した宮城県農業高(宮城県名取市)で飼育され、津波で流されながら生還した乳牛が出産した「サニー」が23日、静岡県御殿場市で開かれる全国規模の品評会に出品される。同校で飼育されていた乳牛は、震災で34頭中20頭が死んだ。サニーは、生き残った牛のおなかの中にいた。「奇跡の牛」と話題になり、昨年10月から同校の仮設校舎で畜産専攻の生徒らが写真のように世話をしている。品評会は5年に1度開催される乳牛のホルスタイン種を対象にした「全日本ブラックアンドホワイトショウ」(全国ホルスタイン改良協議会主催)。専攻の生徒たちは毎日、牛舎に集まり、世話をしてきた。同校2年、須田空流さん(16)は「全国の人に見せたい」と大舞台を心待ちにしていた。宮城県農業高等学校:日本最古の農業高校でもある。学寮として自啓寮があり、通年の入寮者のほか、生徒全員に短期の入寮を義務としている。別名:宮農(みやのう)と呼ばれている。



【命のバトン】津波を生きぬいた奇跡の牛の物語

宮城の農業、堀米薫さん執筆

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた宮城県農業高校(同県名取市)。「農and食」のページでも、津波に耐えて奇跡的に生き残った乳牛と畜産専攻の生徒たちとの交流をお伝えした(11年6月20日付朝刊)。その牛たちと高校生との交流の様子が、児童書「命のバトン 津波を生きぬいた奇跡の牛の物語」(堀米薫・文、佼成出版社)として出版された。宮農は国内最古の農業高校で、地元では「宮農」と呼ばれ親しまれている。畜産専攻の牛は質が高いことで知られ、大震災前には34頭が飼育されていた。大津波が来る直前に担当教師の機転で牛たちは逃げることができ、14頭が奇跡の生還を果たす。そして、畜産専攻の生徒たちと共に、牛の品評会に参加することになる。生徒たちの牛にかける思い、牛たちの生命力が温かな筆致で表現されている。被災した校舎や生徒と牛たちの写真も多数収録され、子供たちの理解を助けるだろう。筆者の堀米さんは宮城県角田市の専業農家で主婦を務めながら、農業や自然をテーマにした児童文学などに取り組んでいる。行間にはじまなごしの柔らかなさは、堀米さんが持つ農業や自然、生命への慈しみのたまものだろう。児童だけでなく、大人が読んでも得られるものが大きい良書だ。

【寺島実郎責任監修】復興構想コンテスト～震災復興から日本創生へ～

<最優秀> 生物多様性の復元と生活文化多様性の創出に関する提言
～仙台平野・名取市関上地区周辺に着目して～

氏名・団体名:早稲田大学建築学科若手研究者有志(永野、日詰、山田、遊佐)(東京都)

ゆりあげ港朝市プロジェクト

名取市関上地区は古くからの住民と仙台に通う若いサラリーマン世帯が混在し、約6000人が住む街でした。ゆりあげ港朝市はそんな関上地区で40年の歴史を誇り、地域の住民に親しまれてきました。毎週日曜日には早朝から採れたての野菜や新鮮な海の幸をそろえ、老若男女のお客様にぎわっていたのです。地域住民の情報交換の場所であり、売り手と買い手の距離の近さが魅力の市場でした。しかし、東日本大震災で8mを超す津波に襲われ、街は一瞬にして消えました。800人近くの人が亡くなりました。朝市も大きな被害に見舞われました。70人いた組合員のうち4人が亡くなりました。家族を亡くした組合員は10人以上。朝市の店舗と組合員の自宅は軒並み流されました。ショックを受けて廃業した人もいます。震災後3週間で奇跡の復活。今年5月に本格営業へ、そして12月1日グランドオープン!!「被災者として税金で面倒を見てもらっているうちは子どもや孫にツケを残す。自力で暮らしを建て直すために、自分たちが今できることをやる。朝市を再建し、街づくりの起爆剤とすることで人が集まり、街に価値が生まれる。長年朝市を愛してくれた地域への恩返しであり、朝市や関上が生まれ変わり、新たに直出すためのチャンスでもある。」朝市の食材を生かした加工品の開発など、6次産業化に向けても力を入れます。ゆりあげ港朝市が関上の街の希望の光となり、復興の起爆剤となるように努力していきます。

株式会社プラットフォーム関上 代表取締役 櫻井広行
支援者 永野聡